

科目名	生理学	英文表記	Physiology		平成25年2月15日		
科目コード	4409						
教員名: 平山けい					作成		
対象学科 / 専攻コース		学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
生物資源工学科		4年	必	学修	2単位	講義	通年
科目目標	食物に必要な成分と生体構成成分の違いを理解したうえで、ヒトのからだにおけるエネルギー代謝や生体内でのアミノ酸や窒素代謝を理解する。また、生体構成成分や機能性成分としての沖縄に生育する植物の有用性を理解することを目標とする。						
総合評価	授業後に行う小テスト20%、課題レポート20%、前期後期の中間テストと期末テスト60%で評価し、60%以上を合格とする。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)		達成度目標の評価方法			目標割合	
	食物に必要な成分と生体構成成分の違いがわかる。(A-2,A-3)		食物及び生体の構成成分との違い、細胞内の情報伝達の理解し、これを小テストとレポートで判断し評価する。			20%	
	ヒトのからだにおけるエネルギー代謝を理解する。(A-2,A-3)		生体内での種々のエネルギー産生・代謝・消費に関して論理的に理解が出来ているかを、記述式試験とレポートで評価する。			20%	
	生体内でのタンパク質分解およびアミノ酸代謝とアミノ酸炭素骨格の代謝を理解する。(A-2,A-3)		ヒトの生体内でおこる代謝に関して、課題レポートを課し、自ら専門の知識を習得する力や課題解決力をこれにより評価する。			20%	
	生体内でのタンパク質分解およびアミノ酸代謝とアミノ酸炭素骨格の代謝を理解する。(A-2,A-3)		アミノ窒素代謝とアミノ骨格の代謝を課題とし、特にヒトの生体内での合成・代謝に関し関連付けて調査し、レポート作成と記述式定期試により評価する。			20%	
生体構成成分や機能性成分としての沖縄に生育する植物の有用性を理解する。(B-1)		沖縄県に生育する植物の有用性や有効利用を考え、生命科学の立場からその機能性の高さを理解し、これを課題レポートや定期試験により評価する。			20%		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	生物資源工学	
					JABEEプログラム教育目標	A-2,A-3,B-1	
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		60	20	20	0	100	
基礎的理解	、	20	20			40	
応用力(実践・専門・融合)	、	20		10		30	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲	、	20		10		30	
授業概要、方針、履修上の注意	授業は一方通行でなく、対面通行で行なう。そのため、予習項目および授業内容に掲げた科学用語による文献検索と参考図書を利用した予習・復習が必要不可欠。学生の積極的な授業への参加を求める。章ごとに小テストを行なう。また、生理学実験と関連して講義を進めるので生理学実験の理解も必要。						
教科書・教材	わかりやすい基礎食品分析(IKコーポレイション)、生化学実験(化学同人)、食品・栄養化学シリーズ『食品学総論-食べ物と健康』(化学同人)分子栄養学(化学同人)、栄養・健康データ集(化学同人)、からだの生化学(Takara)						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	ガイダンス	2	ガイダンス、生化学の理解力テスト	次週の予習	
2	食物および生体の構成成分	2	食物および生体、それぞれの構成成分の理解	次週の予習	
3	エネルギー代謝	2	ヒトのからだにおけるエネルギー代謝の意味を理解す	次週の予習	
4	エネルギー代謝	2	高エネルギーリン酸結合の理解	次週の予習	
5	エネルギー代謝	2	ATP cycle の理解、細胞内ではATPを蓄積することは	次週の予習	
6	中間試験	2			
7	ATP消費系	2	ATP消費系の多様性を理解する	課題レポート	
8	ATP消費系	2	生体構成成分の合成		
9	ATP消費系	2	能動輸送の理解 単位膜と輸送膜		
10	ATP消費系	2	ATPase、カルモジュリン、Na <sup>+</sup> ポンプ、Ca <sup>2+</sup> ポンプ	次週の予習	
11	ATP消費系	2	細胞運動、骨格筋・心筋・平滑筋の仕事	次週の予習	
12	細胞内シグナル伝達系にお	2	水溶性ホルモンの受容体は膜タンパクであることを理	課題レポート	
13	細胞内シグナル伝達系にお	2	ホルモンのシグナル伝達経路の多くはGタンパク質を	次週の予習	
14	細胞内シグナル伝達系にお	2	プロテインキナーゼ	次週の予習	
15	細胞内シグナル伝達系にお	2	成長因子とチロシンキナーゼの関わりの理解	次週の予習	
期末	前期末試験	[2]			
16	細胞内シグナル伝達系にお	2	タンパク質リン酸化は酵素の活性・不活性のスイッチ	次週の予習	
17	タンパク質の分解	2	体を構成するタンパク質は精巧な制御の下に分解さ	課題レポート	
18	タンパク質の分解	2	細胞内可溶性タンパク質はプロテアソームで分解され	次週の予習	
19	タンパク質の分解	2	外来性タンパク質および膜タンパク質はエンドリソソ	次週の予習	
20	アミノ酸の窒素代謝	2	外来性タンパク質および膜タンパク質はエンドリソソ	次週の予習	
21	アミノ酸の窒素代謝	2	グルタミン酸脱水素酵素とグルタミン合成。グルタミン	次週の予習	
22	アミノ酸の窒素代謝	2	筋肉でのアミノ酸代謝によりアラニンとグルタミンの血		
23	中間試験	2			
24	アミノ酸の窒素代謝	2	アミノ窒素は肝臓で尿素に転化すること、および、尿	課題レポート	
25	アミノ酸窒素代謝	2	尿素の生成はアルギニンの合成経路をたどること、各	次週の予習	
26	アミノ酸炭素骨格の代謝	2	解糖系やTCAサイクルで形成された多くのアミノ酸の	次週の予習	
27	アミノ酸炭素骨格の代謝	2	含硫アミノ酸の代謝、分岐アミノ酸の代謝	次週の予習	
28	アミノ酸炭素骨格の代謝	2	アミノ酸から誘導されるタンパク質以外の生体構成成	次週の予習	
29	アミノ酸から誘導されるタンパ	2	神経伝達物質、生理活性アミン	次週の予習	
30	アミノ酸から誘導されるタンパ	2	グリシンを原料として合成される生体内含窒素化合物		
期末	後期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
各分野の予習復習				各1時間×20回	
課題レポート作成				各2.5時間×4回	
<b>備考欄</b>					
<p>・本科目はJBEE対応科目である。</p> <p>・本科目の主たる関連科目は生化学(3年)、生理学実験(4年)、生物資源利用学(4年)、生命科学(4年)である。</p>					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)